創刊110周年記念

誇れるふるさと 24地区リレー 〈vol.2〉

＜厚南① 特徴＞

開作の歴史 物語る用水路

宇部市の西部に位置する厚南は、明治時代は旧厚狭郡に属しており、その南側にあることが地名の由来。1889（明治22）年に厚南村となり、1941年10月20日に宇部市に編入合併した。地区の特徴は、大部分が開作地だということ。中野の蓮光寺がある辺りから東側はかつて海だった。開作の最初は際波沖（120㌶）で、大永年間（1521～28年）に大掛かりな開作を行い、広大な田園地帯が誕生した。

歴史ある「御撫育用水路」（中野団地自治会付近で）

若い世代多い住宅地に

基本データ
- 面積3.64平方キロメートル（18位）
- 世帯数4757世帯
- 人口1万489人（6位）（男4909人、女5580人）
- 高齢化率32.2%
- 小学校児童数579人

※世帯数などは2022年4月1日現在

江戸時代の長州藩では功労のあった家臣に「勤功開作地」として与え、陸地化を進めた。代表する中野開作（1787年完成）の築立後、かんがい用水がため池だけでは不足し、干ばつの恐れがあったため、撫育（ぶいく）方は厚東川上流の五田ケ瀬（厚東小の下）にせきを造り、厚東川の水を取水して棚井、広瀬、際波を通って中野開作へと水を引いた。それが「御撫育用水路」。1788年から5年間をかけて完成させた。

撫育とは庶民をかわいがり育てるという意味で、士農の困窮を救済しようと名付けられた。厚南では第7代毛利藩主重就の撫育方設立や新田開発の業績に対し「御」を付けることにより、畏敬の念を表したとみられる。

市に合併した当時は人口1万3068人の農村地帯で、1943年には原小の開校により原地区が分離。60年代から住宅が増え、厚南小は全校児童約1700人のマンモス校に。人口も64年の8593人から10年後の74年には1万3199人に増加した。94年には黒石小の新設と同時に西宇部と黒石がそれぞれ分かれた。現在の厚南地区には4757世帯、1万489人が居住している。

地区コミュニティー推進協議会の松永茂夫会長によると、近年は農地の宅地化でアパートや戸建ての建設が進み、全体的に若い世代や家族の転入が多いという。一方、新型コロナの影響もあり、子どもたちが一堂に集まって交流する機会が少なくなったと指摘する。

そういった状況を解消しようと、地区放課後子ども教室運営協議会・つくしんぼ教室（矢橋修会長）では、コロナ対策を講じつつ月2、3回のイベントを企画。幅広い世代が楽しめるパン教室、ハゼ釣り大会、ボッチャ大会など、地域住民と小学生が気軽に交流を図れる場を提供している。

今の時代、子どもたちが外を走り回るには、周囲の努力や環境条件が必要。そのためには行政や地域に何ができるか、真剣に考える必要がある。矢橋会長は「彼らが成長し地元を離れても、いずれは必ず戻ってきたいと思えるような住みよい地域にしていくことが私たちの役目」と力を込める。